

農作業コツのコツ

【第 13 号】
 令和 2 年 7 月 18 日
 福光農業改良協議会
 砺波農林振興センター 南砺班
 福光農業協同組合 営農部

早生 出穂後 20 日間の湛水管理

中生・晩生・直播 出穂期まで飽水管理。

農作業中はこまめな休息と水分補給に努め、熱中症を予防しましょう。

水稻の生育は、平年に比べとみちからは 2 日早く、五百万石、コシヒカリ、てんこもりは 1 日程度遅く、密苗コシヒカリ・密苗てんこもりは 2～3 日程度遅くなっています。

- ①とみちから、五百万石は出穂後 20 日間の湛水管理を徹底しましょう。
 - ②コシヒカリ、てんこもり、直播は、出穂期まで飽水管理を行いましょ。
- また、出穂 7 日前の葉色が薄い場合、出穂の 3 日前までに追加穂肥を行いましょ。

◎水稻の生育状況

福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果(7/14)

品種名	田植日		草丈(cm)		株当たり茎数(本)		葉齢(葉)		葉色		幼穂形成期		
	R2	平年	R2	平年	R2	平年	R2	平年	R2	平年	R2	平年	
コシヒカリ	5/15	5/13	76.9	77.0	21.1	20.2	12.5	12.6	4.0	4.1	7/12	7/11	
てんこもり	5/ 8	5/ 8	69.5	67.8	25.8	30.0	13.3	13.5	4.2	4.1	7/14	7/13	
密苗	コシヒカリ	5/17	5/14	74.6	74.4	19.1	28.8	12.2	12.9	4.2	4.2	7/15	7/13
	てんこもり	5/10	5/10	67.6	71.0	26.5	32.5	13.6	13.4	4.2	4.3	7/16	7/13

調査筆数：コシヒカリ 3 筆 てんこもり 2 筆 密苗コシヒカリ 4 筆 密苗てんこもり 2 筆

1. 早生品種は出穂後 20 日間の湛水管理

早生品種は、出穂後 20 日間（7 月 17 日出穂は 8 月 6 日頃まで）田面が露出しないように 2～3 cm の湛水状態を保ちましょ。

2. コシヒカリ、てんこもり、直播は出穂まで飽水管理

- ・コシヒカリ、てんこもり、直播では、葉色を確保・維持するため、足跡や溝に水が残る程度で入水し、土壌の湿潤状態を保つ「飽水管理」を徹底しましょ。
- ・葉色が濃く、ほ場が軟らかい場合は、間断かん水を継続しましょ。

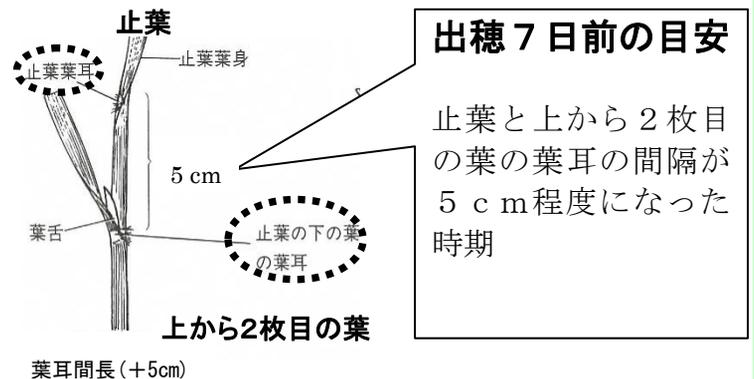
3. 穂肥

①コシヒカリ（慣行苗）

- ・現在、分施栽培は 1 回目の穂肥の時期を迎えています。草丈、葉色などの生育量に応じ、慎重に施肥しましょ。
- ・出穂 7 日前（7 月 26 日頃目安）に葉色 4.0 を下回る薄いほ場は、追肥 3 号を 7 kg / 10 a 追肥し、穂揃期の葉色を 4.3～4.5 に誘導しましょ。

②てんこもり（慣行苗）

- 出穂 7 日前（7 月 29 日頃目安）に葉色 4.2 を下回る薄いほ場は、追肥 3 号を 11 kg / 10 a 追肥し、穂揃期の葉色を 4.5 に誘導しましょ。



4. 斑点米カメムシ防除の徹底

- ・斑点米カメムシが平年より多く発生しています。草刈りと本田防除を徹底しましょ。
- ・雑草の穂が繁殖場所となるため、収穫まで雑草の穂が出ないようこまめに草刈りしましょ。
- ・やむを得ず、穂の出ている雑草を刈る場合は、本田防除の直前に行いましょ。

5. 葉いもちの防除

- ・曇雨天日が続いており、葉色が濃いほ場で葉いもち病の発生が心配されます。
- ・ほ場を巡回し、病斑を見つけたらただちに防除しましょ。

防除薬剤名	防除時期	使用時期	使用回数	10a 当たり散布量
ブラシン粉剤 DL	直ちに	収穫 7 日前まで	2 回以内	3～4 kg
ブラシンフロアブル				1,000 倍で 60～1500

※詳しくは、「営農とくらし」39～41 ページを参照願います。

大豆

1 2回培土の実施

- ・開花期までに、晴れ間を見て、培土を確実に2回行いましょう。

培土の効果

- ① 排水促進
- ② 根量・根粒の増加
- ③ 倒伏防止
- ④ 雑草防止



2 排水対策

- ・降雨後に雨水が停滞しないように、排水溝の手直しと排水口への連結を確認しましょう。

3 雑草防除

- ・培土を行っても雑草の発生が多い場合は、①雑草の種類や葉齢、②大豆の生育状況に応じて、下表の除草剤を使用しましょう。使用の際は、農薬の使用方法、注意事項等を確認し、飛散防止に注意しましょう。

対象雑草	除草剤名	使用時期	使用回数	10a当たり散布量
イネ科雑草	ポルトフロアブル	イネ科雑草3～10葉期 ただし、収穫30日前まで	1回	薬液 200～300ml ／希釈水量 100ℓ
畑地1年雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～開花前 ただし、収穫45日前まで	1回	薬液 100～150ml ／希釈水量 100ℓ
畑地1年生雑草	ラウンドアップ マックスロード	雑草生育期(畦間処理) ただし、収穫前日まで	2回以内	薬液 200～500ml ／希釈水量 50～100ℓ
	ザクサ液剤 バスタ液剤	雑草生育期(畦間処理) ただし、収穫28日前まで	3回以内	薬液 300～500ml ／希釈水量 100～150ℓ

4 病虫害防除

(1)ウコンノメイガの随時防除



葉巻き症状



ウコンノメイガ幼虫

【防除の目安】

7月下旬から8月初めにかけて、**葉巻き症状(写真)を株当たり6個以上確認したらすぐに防除しましょう。**
(特に単作大豆など生育旺盛な場合は注意！)

【防除薬剤と散布量】

防除体系	農薬名	散布量	使用回数および使用期限
粉剤体系	サイアノックス粉剤	4kg/10a	2回以内 収穫7日前まで
液剤体系	プレバソンフロアブル5	4,000倍 200ℓ/10a	

(2)基本防除

防除は、1回目は莢が伸び切った頃、2回目は莢に子実がつまった頃を目安に行いましょう。

防除体系	回数	時期	農薬名	散布量
粉剤体系	1回目	8/5～15頃	Zボルドー粉剤DL※	3kg/10a
	2回目	8/20～30頃	スミチオンベルコート粉剤 DL	3kg/10a
液剤体系	1回目	8/5～15頃	プランダム乳剤 25 カスケード乳剤	4,000倍 200ℓ/10a
	2回目	8/20～30頃	アミスター20フロアブル	2,000倍 200ℓ/10a

※出穂している水稻にかかると薬害が発生するので、飛散防止に努めましょう。